令和８年 10 月（10 月号）

松江市出雲玉作資料館 **資料館だより**	松江市出雲玉作資料館発行 〒699-0201　松江市玉湯町玉造 99-3 開館時間 9 時～17 時（入館は 16：30 まで） 休館日；月曜日・休日の翌日 TEL・FAX（0852）62-1040

■玉湯学園７年生６人来館



9月11日(金)【総合的な学習の時間】松江自主研修にて7年生が地域の人々との交流を通して、進路や生き方について考える学習の一環として玉作資料館を見学。3 年生全員で来館した時の事を覚えている数人は「なつかしー」「勾玉を作ったー」と再度パネルを見ながら学習。

■玉湯公民館主催玉湯まち巡り　布志名編　講師：出雲玉作資料館　片岡館長・金森

10 月 1 日（土）バス 2 台で布志名方面をまち巡り。灘舩木窯、若宮神社、忌部神社を見学。



●布志名の地名

地名については奈良時代に編纂された【出雲国風土記】に「布自奈社（布自奈神社。布自奈大穴持神社)」と記してあるのが最初と思われます。

中世（鎌倉時代～室町時代）には代々出雲国守護であった佐々木一族が治めた玉湯周辺は、湯庄（湯郷）と呼ばれていました。やがて、それにちなみ「湯」を性にした「湯氏」と名乗り、「湯氏」、「佐世氏」、「富士名（布志名）氏」の三家となり、それぞれが室町時代にも続いて活躍していました。

●布志名焼の歴史

布志名焼は出雲地方を代表する焼き物で、布志名地区を中心に点在する窯元の総称。元祖は船木与次兵衛村政と言われ、1750 年にこの地に窯を開いたとされます。この村政の子供たちが独立し、それぞれの窯を開き、布志名焼の発展に力を注ぎ、江戸時代から今に続いています。江戸時代には藩窯と民窯に分かれ、藩窯は松江藩七代治郷の命により黄釉の茶道具を作っていました。現在も操業している雲善窯がそうです。一方、民窯は舟木窯を中心に庶民が日常に使う湯呑や飯茶碗、甕などを作っていました。

明治時代になり、藩体制が崩壊すると、松江藩の御留色だった黄釉も布志名の多くの窯元がうようになり、華麗な絵付けとともに、大正時代の終わり頃まで日本はもちろん海外でも人気が高く、輸出品も多く作られ、布志名焼はかなりの収益を得ました。

昭和初期には売り上げが激減し、不景気や戦争による統廃合で廃業した窯元も数多くありましがバーナードリーチや柳宗悦、浜田庄司、河井寛次郎などが布志名で技術指導を行ってからは、再び「民藝」として復活をとげました。

■ご案内

秋季企画展　**灘舩木のふたり　研兒・倭帆の技**

～響きあう土とガラス～

10 月 20 日(火)～11 月 29 日(日)





■10 月のロビー展　　無 料　　出雲玉作資料館友の会主催

安達佳丘　追悼　展



10月3日(土)　～　10月31日(土)







■【休館日のお知らせ】

10/5(月) 10/13(火) 10/19(月) 10/26(月)

10/12(祝・月) は開館します。





■11 月のロビー展は【栗原哲朗　かずらで創る花かご＆ランプシェード展】です。